

⑨ 森村市左衛門の作品寄贈

昭和十九年、男爵森村市左衛門（七代目）から左記の油画および水彩画計十点が本校に寄贈された。

裸婦	(油画)	原	撫松筆
雨後の牧場	(同)	同	
森村市左衛門の寄贈書には「牛のゐる風景(岩崎弥之助男所 有)の「コッパイ」とある。			
ヴァイオリンを弾く男	(同)	同	
横向婦人像	(同)	同	
使徒パウロ	(同)	同	
森村市左衛門の寄贈書には「男の肖像」とある。			
老婦人	(同)	同	
野遊び	(同)	和田	英作筆
バックingham宮殿前	(同)	牧野	義雄筆
テームズ河畔	(水彩)	同	
母子	(油画)	フロラ・ライオン筆	

森村市左衛門のメモ帖(福永郁雄氏提供コピー)によれば、寄贈願いが出されたのは十九年五月五日(本校文庫台帳登録は同年七月十九日)のことである。市左衛門は空襲による焼失を恐れて高輪の自邸に置いてあったこれらの名品を本校に寄贈したのであって、原撫松の作が多いのは森村邸に撫松のアトリエがあった関係によるが、一点だけ寄贈しないでおいた撫松の森村市左衛門(先代)肖像は十九年五月二十三日、二十九日の両度の空襲で家とともに焼失した。右の十点は危うくその難を逃れたわけである。

⑩ 学校工場化

昭和十九年七月十一日、文部省は決戦非常措置要綱に基づく学校工場化の具体策について諸学校に指示を出し、学校を軍需物資生産工場に転用することとした。次いで同年十二月三十日に通牒を発し、敵は航空工業の壊滅を企図しているため、航空機工場を極力学校校舎に分散することが閣議で決定されたので、航空機関係のものを優先して校舎転用を行い、転用は学校の半分を目安とし、生徒をその工場に出勤させるべしと指令した。かくて本校内にも航空機関係の工場が作られ、生徒はそこへ動員された。また、二十年二月以降、八島玉仙寄贈の土地は陸軍被服本廠が借り上げ使用することになった。

⑪ 美術品の疎開・終戦前後の文庫

空襲による被害が予想されたため、帝室博物館や美術研究所では既に美術品の疎開を進めていたが、本校でも昭和十九年の六、七月、上野直昭校長と東京都西多摩郡小宮村養沢の住民との間に建物賃貸契約が結ばれ、直ちに文庫の重要美術品の疎開が行われた。貸与者は次のとおりである。

小宮村養沢五八番地	池谷	良助
二階建土蔵	建坪八坪七五	一棟
同	六六番地	池谷 精一
二階建土蔵	建坪四坪	一棟
同	二二四番地	谷合 昇
二階建土蔵	建坪八坪七五	一棟